

※各問の出典の記入は自由とする。

問一 次の文を、行書で調和よく書きなさい。(形式は縦・横自由)

荒城の月
土井晩翠

春高樓の花の宴
めぐる盃 影さして
千代の松が枝 わけ出でし
むかしの光 今いづこ

秋陣營の霜の色
鳴き行く雁の 数見せて
植うるつるぎに 照りそひし
むかしの光 今いづこ

問二 次の賞状を、筆ペンを使って楷書で、調和よく書きなさい。

表彰状
特選 宮崎道子

あなたは第二回全国書道展において
頭書の通り優秀な成績を収められま
したのでここに表彰します

令和四年十一月三日
宮朝新聞社

問三 次の短歌を散らし書きしなさい。漢字は仮名に変えてもよい。

(連綿や変体仮名をいくつか使いましょう)

一夜に山に雪つみわが宿の庭のたかむら朝雨の降る

(若山牧水)

問四 枠内の漢詩を、解答欄の大きさに合わせて、楷書と隸書で調和よく書きなさい。(形式は縦・横自由)

秋浦千重嶺
水車嶺最奇
天傾欲墮石
水拂寄生枝

(読み)

秋浦 千重の嶺

水車嶺 最も奇なり

天は墮ちんと欲する石を傾け

水は寄生の枝を払う

(李白)